

## 2016 年度 IT 経営カンファレンス開催 概要報告(IISA)

開催日時	2017年2月22日 (水) 午後1時～午後5時
開催場所	金沢勤労者プラザ (101研修室) 金沢市北安江3丁目2-20 <a href="http://www.kinpura.com/">http://www.kinpura.com/</a>
主催	特定非営利活動法人石川県情報化支援協会
共催	特定非営利活動法人 IT コーディネータ協会

		講演内容
1	基調講演 I	テーマ:IoT 活用によって変わる中小企業の経営 講師:一般社団法人クラウドサービス推進機構 理事長 松島桂樹氏
2	特別講演・事例	テーマ:当社が取り組んでいる IoT 活用 講師:武州工業株式会社 代表取締役 林英夫氏
3	基調講演 II	テーマ:IoT ビジネスの課題 -北陸の中小企業に向けて- 講師:北陸先端科学技術大学院大学教授 丹 康雄氏
4	講演・事例	テーマ:IoT の取り組み - ひとりの IT コーディネータとして考えること - 講師:北陸通信ネットワーク株式会社 事業戦略部長 酒井正幸氏
5	ご報告	テーマ:IoT 時代のサイバー犯罪とセキュリティ対策 講師:石川県警察本部 生活安全部生活環境課 サイバー犯罪対策補佐 警部 辰村憲一氏

参加人数	
参加者分類	ITC:           人、ITC 以外:       人

冒頭司会者からの開催挨拶: IISA 林 良隆 理事
①開会の挨拶 ②配布資料確認 ③進行挨拶
主催者 挨拶: IISA 原 保 理事長
①良い講師陣に恵まれ定員 80 名がほぼ満席となったことへの参加御礼 ②IISA の紹介:ITCA 届け出組織である。会員数 102 名。昨年 10 周年を迎えた。 事業概要:オープンセミナーや ITC 教育事業、補助金活用支援事業を通じて中小企業への支援、人材育成支援の活動を行っており、今後も地元根付いた活動をして行く。
共催者挨拶: ITCA 会長 播磨 崇氏「中小企業の更なる IT 経営に向けて」
①ITCA 及び ITC の現況紹介。2016 年 3 月現在の ITC 資格保有者数は 6200 人余。 ②仕事が変わる時代を迎えている。キーワードは AI、ロボット、シェアリングエコミー、Fintech、クラウドファンディング等の例に見られるITの使い方。単なる活用ではなく、これらを使ったビジネスが生まれ短期間で成長しており今後加速するだろう。国の政策もこうした傾向を反映しており、企業経営には時代の変化を捉えた発想の転換が求められている。 ②中小企業の「攻めのIT経営」は、こうした環境の中で小さなイノベーションを積重ねながら成長につなげていくことで実現可能である。

■ 開会挨拶



■ 主催者挨拶



■ 共催者挨拶



1. 講演1

「IoT 活用によって変わる中小企業の経営」  
一般社団法人クラウドサービス推進機構  
理事長 松島 桂樹 氏

概要:

- ①国は「日本再興戦略 2016」で中小企業へのIT普及が日本でのインダストリ 4.0 の条件であると言っている。ドイツやアメリカでインダストリ 4.0 が凄いとされていて 2 年、漸く日本でも予算が付けられ本格的な取組みが始まっている。
- ②そのインダストリ 4.0 の 3 つの基本が IoT(データの自動収集)、EDI(データをつなぐ)、AI(データを使って稼ぐ)である。これらを使い、“売る“から”使った分だけ払う“富山の薬売り型のビジネスモデルへの転換が進むだろう。
- ③スマホなどを使った身近な IoT 活用での成功事例を紹介。
- ④EDI 環境も法律を含め共通 EDI の方向に向かい始めている。金融 EDI によるインターネットバンキングの普及はクラウド活用と相まって中小企業の経営に利便性をもたらす。
- ⑤中小企業には成功事例にみられるような経営指導が大切。中小企業が使える IoT の推進を今のうちに行わないといけない。この施策の一つとして IoT ツールを公募し 106 件を公表した。
- ⑥こうした環境は中小企業にとりビジネスチャンスでもある。IoT を使い小さなカイゼンを重ねて改革につなげ、そこからブレイクスルーが生まれる。そのためには頼りになる支援者が必要。ITC にはそれを担ってほしい。



## 2. 特別講演・事例

「当社が取り組んでいる IoT 活用」

武州工業株式会社 代表取締役 林 英夫 氏

概要:

①武州工業株式会社の企業概要紹介

②自動車部品の製造販売をしているが、海外の格安部品との厳しい競争下にある。その中でも安定経営を続けており、海外生産は今後も必要ないと考えている。

③これを支えているのは当社のモノづくりの理念であり、それに基づく設備開発、人材教育、生産方式“一個流し生産”である。“一個流し生産”では検査を改めてしなくても工程単位で品質を確保できているため生産性は高い。

④この方式の確立のために自社システム「BIMMS」を開発した。EDI、写真を使った工程管理、日々決算ができることが特徴であり、真の企業間連携、IoTを用いた現場の見える化を実現し、高い生産性を下支えしている。

⑤人はデータを見せて気づきを与えると変わる。自社のノウハウを他の企業にもオープンにして「気づきシステム」として使ってもらおうと決意した。BIMMS をオープンなクラウドシステムとしシェアしていこうと考えている。このシステムを多くの中小企業に使ってもらい、生産性向上に役立ててほしいと願っている。



## 3. 講演2

「IoT ビジネスの課題 -北陸の中小企業に向けて-」

北陸先端科学技術大学院大学教授 丹 康雄 氏

概要:

①home ネットワークにICTを取り込むことについて 20 年間携わり、IoT の第一線で研究してきた。

②「IoT とは何か」で 1980 年代に始まる情報システム発展の流れを振り返り、これまでの IT、ICT との違いとIoTの特徴が解説された。

③IoT の実例としてホームネットワークのスマートホーム、スマートハウスが例示された。今後モノではなく機能に API を提供することが主流になるであろう。また 50km という長距離通信も実現可能になってきた。使い方自体が変わる。次は給電方法、遠距離管理技術が課題となる。

④IoT の課題

セキュリティは現実の生活、現場実務に直接影響があることなので、IoT の普及に合わせて重要な課題となる。HEMS に見られる問題は IoT 全般に言えることである。省エネにつながる仕組みにはまだなっていない。ホームネットワークの視点からみると利用者個人の目的と国の推進方針との間にはズレがある。

⑤北陸はモノづくり、情報産業ともに盛んであり、自治体の取組みを含め IoT 推進により環境下にある。これを活かしてほしい。



#### 4. 講演・事例

「IoT の取り組み ひとりの IT コーディネータとして考えること -」

北陸通信ネットワーク株式会社 事業戦略部長 酒井 正幸 氏

概要:

- ①北陸通信ネットワーク株式会社の企業概要紹介
- ②全国規模ではIoTへの具体的な取組が盛んになってきているが、石川県では関心、取組みがかなり遅れている。普及しない理由には使い方やセキュリティへの不安などがある。
- ③普及には普段の生活の中に溶け込ませる使い方がポイントと思われる。そこで自身で目的を設定し、IoT 機器を作ってみたがクラウドサービスとの連携により比較的容易に実用化できることがわかる。
- ④ただし、セキュリティ確保が重要な課題となる。IoT 機器のパスワード設定不備による実害も出ている。こうした状況への対策として、IoT 推進コンソーシアムからは「IoT セキュリティガイドライン ver1.0」が公表され 5 つのセキュリティ指針が示されている。
- ⑤セキュリティリスクはあるもののITから IoT への時代の変化は今後加速し、人々の生活、企業を支える社会基盤となるであろう。北陸通信ネットワークとしても IoT を使ったサービスの提供を検討中である。



## 5. ご報告

### 「IoT 時代のサイバー犯罪とセキュリティ対策」

石川県警察本部 生活安全部生活環境課サイバー犯罪対策補佐  
警部 辰村憲一氏

#### 概要:

- ①IoT 活用により便利になった分、サイバー犯罪も必ず増える。IoT 特有の問題点として次の点があげられる。デバイスの使用時間が長い、デバイスの使用数が多い、セキュリティ性能が不明、無線接続によるネットワーク上のリスク、等である。石川県でもスマート TV へのランサム攻撃事例があった。
- ②今後、工場乗っ取り、ビル乗っ取り、自動車のハンドル操作、炊飯器の過熱、病院の機器乗っ取りによる殺人などこれまでになかった犯罪が想定される。海外では既に事例がある。
- ③特に中小企業にはセキュリティへの意識付けと教育が課題であり、できることから早急を実施することが求められる。完全な防止は困難と思い、発見と対策、社内体制の整備を行うべきである。
- ④ウェブサイトへの攻撃などは日常化しており、OS 等のアップデートは必ず行い、ログをしっかりと保存する仕組みも必要である。またファイアウォールや UTM の導入などもぜひ考えてほしい。今やセキュリティはコストではなく信頼確保への必要な投資であることを理解して頂きたい。



以上